

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年8月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホームそら
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場町8番11号 (電話) 0996-22-6800
自己評価作成日	令和5年7月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する同法人の介護老人保健施設で、主治医による往診や、機能訓練士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士の定期的な助言を受けながら日々の健康管理に努め、入居者が安心して、心地良く生活して頂けるように、常に考えながら支援を行っています。隣接事業所と連携を取りながら、緊急時の対応や災害時の訓練を合同で行う協力体制が整っています。介護度や年齢により、精神面や身体面は様々ですが、認知機能や身体機能の低下にならないように必要以上の介助をしないように努めています。リハビリを兼ねて、一緒に作る食料、季節毎の行事、敷地内の散歩、施設内の飾りつけも季節が分かる物を一緒に作成、掲示し皆様に楽しみを持って頂けるように、日々取り組んでいます。利用者の重度化と高齢化に伴う中で、法人内チーム介護で、入居者一人一人の個性や生活環境に配慮した介護に取り組んでいる。職員が向上心を待って働ける職場を目指している。新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、外出やドライブ、地域の方との交流にも取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR川内駅に近く、周辺にホテルや飲食店、スーパー等が建ち並ぶ商業地にあるため利便性が高く、また、同敷地内に老人保健施設を有することもあり合同による災害訓練の実施や看護師、理学療法士、管理栄養士による助言や提案も得られるなど法人内での連携が緊密に取れる環境にある。

ケアプランチェック表により支援内容が実践できているかを毎日記録すると共に、申し送りや職員会議でのカンファレンス、定期モニタリングや担当職員による気付き等を参考にしながらケアプランを作成している。特に援助内容については、職員全員が統一した支援が実践できるよう具体的に記載している。また、利用者の意向を日常の様子等から、家族からは面会時や電話等により意向を把握するほか、協力医療機関の医師や理学療法士等の専門職の意見も参考にしながら、現状に即したケアプラン作りに努めている。

職員全員で話し合い作り上げた理念を目に付きやすいフロアと玄関に掲示するほか、ネーム裏にも理念を記載しており、判断に迷った時等に見返している。また、理念のほかに年度目標も作成しており、本年度は、[1.情報共有 2.余暇活動 3.スキルアップ 4.地域交流]を職員間で話し合い、事務所内に掲示することで意識付を図り日々の支援につなげている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	平成24年に職員一同で話し合って決めた理念を全職員で共有し、実践につなげている。	理念に加え職員全員で話し合い作り上げた年度目標をフロアと事務所に掲示している。またネーム裏にも理念を記載し、判断に迷った時等に見返すことで意識付を図り日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入している。認知症カフェや認知症サポーター養成講座等で、地域や家族との交流につなげている。	月2回地域住民等が参加する認知症カフェを開催し、作品作りや体操、認知症について学ぶ場として交流している。コロナ禍ではあるが法人内にある託児所園児との関係が途切れないよう窓越しによる交流を続けている	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人の一員として、運営推進会議や認知症カフェを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるよう、情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告や利用者のケアや取り組み状況等の報告を行い、意見交換を行っている。意見をサービスの向上やケアに活かす取り組みを行っている。	会議には家族代表や地域住民代表、消防署員や行政職員等が参加し、主に利用者情報や研修、ヒヤリハット等について報告している。参加者より外出に関する提案を受け、家族との外出を再開させる等、出された意見をサービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族からの相談等や困難な事例は市役所に相談し、連携を図っている。また、運営推進会議で、市の担当者と意見交換や事業所の実情を伝え、情報共有を行っている。	行政職員とは運営推進会議や認知症カフェ等で顔を合わせるほか、介護認定申請や認定情報を請求する際に市役所窓口に出向き意見交換を行っている。また行政との窓口として法人内に地域連携室を設け対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、身体拘束について勉強会を実施し、禁止対象となる具体的な行為の正しい理解について、全職員の共通認識を図っている。外出希望がある時は、外出に付き添う支援を行っている。	「身体拘束適正化のための指針」を設け、年4回身体拘束適正化委員会を実施し拘束の内容や弊害について話し合っている。コロナ禍以降、研修はオンラインによる個人研修が主だが、テストやレポート報告までが研修に含まれているため習熟度は高い。言葉による拘束については職員間で注意し合える関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、法人共同の勉強会他、身体拘束適正化委員会でも学習する機会をつくり、虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修会へ職員が参加し、他の職員へ伝達講習会を行い、全職員が理解するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や介護保険改正、加算算定時に事前に管理者・介護支援専門員により説明を行っている。退居を含めた施設での対応可能な範囲についても説明を行っている。利用様者・家族からの不安や質問は随時対応し、理解・納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関の意見箱の設置や運営推進会議に家族が参加し、その際意見を聞きサービス改善に努めている。又、電話や面会時にお話を伺い要望を取り入れるようにしている。	日々の見守りや声掛けにより利用者からの意見や要望を汲み取るほか、家族からは面会時や状況報告の際に意見を求めている。また、2か月毎に発行する「そら便り」を家族に送付することで日々の生活の様子を伝えると共に、家族の要望を伺う機会にもなっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・代表者が出席する経営会議、管理者・職員が出席する施設の会議を毎月実施し、職員提案や検討が行える体制を整えている。	職員の意見を朝夕の申し送り時や毎月の職員会議で聞き取るほか、相談事がある時等には都度、個別に話をする機会を設けている。また、勤務表作成時には可能な限り休みの希望を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務は原則担当制としている。業務量が偏らないように分担し配慮している。研修や資格取得の支援、資格手当も整備されており、やりがいにつながっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修として、ネットを活用した研修を毎月行っている。行政やグループホーム協議会、認知症関連の研修会への参加機会を設け、職員のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設や在宅介護支援事業所との連携、グループホーム協議会加入による交流や勉強会の参加を通じて学び合い、質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の情報を事前に全職員が理解・把握して、実際に本人様が来られ入居後は初めての環境に不安を持たれていると思うので積極的に関わりを持つように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期利用における家族からの情報の重要性を、全職員が理解しており、入居後も本人とご家族との良好な関係が保てるように積極的に相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は、初期相談は法人の支援相談員が窓口に一本化されているが、相談等、入居の可否に関わらず、その時必要と判断したサービスの紹介を行い、問題解決の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLに応じて、季節ごとのお菓子や野菜を使った料理の出来る箇所を手伝って頂いたり、また職員も一緒に参加し、楽しい時間を共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のキーパーソンを中心にして、生活状況を面会時や広報誌、ケアプランの説明時にもお伝えしている。体調不良時にも常に連絡し、交流している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、外出の機会が減少しているが、電話で話をして頂く機会を作ったり、玄関先での対面面会により交流をはかっている。	外出制限が続いているが、家族との外出については制限を緩和しており、病院受診についても家族同行とする等、家族との関係継続に努めている。友人知人との関係についても電話や手紙の取り次ぎ等、状況に合わせて対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握して、交流しやすい配置にして、良好な関係づくりができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活する場所が変わっても、注意点などの情報提供を行い、いつでも家族からの相談があれば対応して、関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の思いや意向を表情や行動・仕草から推測し、朝夕の申し送りやカンファレンスで検討し、情報共有して、実践している。	日々の会話や生活の中で見せる表情等から思いを汲み取ると共に、家族から聞き取りした生活歴等の情報も参考にしながら思いの把握に努めている。把握した内容は職員間で共有し、本人本位の生活につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族やケアマネ等からプライバシーに配慮しながら収集し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の少しの変化にも、個人記録・申し送りや業務日誌、ケアカンファレンスの場を活用して現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族の想いを反映させることが出来る様に、担当職員、介護支援専門員を含め、必要に応じて医師、併施設専門職（歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士）の意見を取り入れながら、作成している。	申し送りや職員会議等においてカンファレンスを行い、定期モニタリングやケアチェック表のほか、担当職員の意見も参考にしながらケアプランを作成している。また、プランには本人家族の意向は基より、医師や理学療法士、管理栄養士等の助言も参考にきめ細かなプラン作りがなされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人録や所定の記録用紙を活用して、日々の記録を記入している。朝・夕の申し送り時に変更点、注意点など情報を共有してケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の多職種の専門職から、助言・アドバイスをもらい、利用者のケアに活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	6月から外出の許可がおりたので、行きたい場所ややりたいことの把握に努めて、事前連絡をもらって個別に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や専門医の選定にあたっては、家族と検討しその時の状況に合わせて、協力医療機関の協力も頂きつつ行っている。	入居前のかかりつけ医を把握し入居後も本人家族の希望する医療機関の利用が可能であるが、往診による安心から現在は利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医として利用している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が、常勤しており主治医が2週間に1回往診され適切なアドバイスがあり利用者の状態変化を見逃す事がないように努めています。夜間、緊急時は併設施設の看護師が対応して頂ける体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と電話等で情報の提供、収集を行っている。退院後の生活の不安がなくなるよう退院時の情報収集、法人の専門職と連携し体制作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に対し入居時より当事業所で対応可能な事、出来ない事を説明している。早い段階から個別に入居継続可否の判断は主治医や協力医療機関の医師にお願いしている。	入居時に「重度化対応に関する指針」「延命措置に関する意思確認書」を説明し同意を得ている。事業所の方針としては看取り支援は行っていないが、重度化しても本人家族の希望する支援が得られるよう医療機関の医師とも協議しながら支援内容を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時に対処法について勉強会を行い、法人と共同の勉強会を開催している、		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の併設施設と共同で避難誘導、火災、災害訓練、夜間呼び出し訓練を行っている。BCP作成しスタッフ間で確認している。災害時に備えて飲料水や食料を備蓄している。	夜間想定を含む火災や風水害訓練を隣接する法人施設と合同で実施している。避難確認の重複を防ぐため利用者が退避したら居室ドアの飾りつけを、落とすよう取り決めている。備蓄は法人本部で一括管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として個人情報の保護、尊厳保持に努めている。日常生活での関りかたについて、ケア会議等で話し合い、職員のケアを見直す機会としている。	プライバシーへの配慮からトイレ誘導の声掛けは他者に聞こえないようさり気なく行くと共に、排泄チェックシートについても羞恥心に配慮して人目につかないようファイリングして管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中で、本人の意向ややってみたい、こうしたいという思いを聞き出し、自己決定出来るように選択肢を増やすようにして非言語的な表情、しぐさ等から推測している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好みの物、症状、体調、生活歴を把握し、日課活動、居室で午睡される等、個々のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容、スキンケア等時間を設けたり、服装の希望等を提案し、個性の大切さに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	マスク着用、手指・調理器具等の消毒など感染症対策をとりつつ、栄養士等と連携をとり、一部制限しながらも、お菓子作りなどの簡単な調理を行っている。	外注による食事を提供しており、刻み食等については職員が手を加え個別の食事形態に対応している。コロナ禍の為、食事の盛り付けは職員が行うが、テーブル拭き等については利用者も参加している。毎月のおやつ作りを楽しみにしている利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の管理栄養士、歯科衛生士・言語聴覚士等の助言をもらい、1人1人の適切な量・形態で提供している。食事、水分量は表に記載・チェックし、量の確保に向けて嗜好品など利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生マニュアルに沿って、毎食前、口腔体操を行い、食後は利用者様本人が口腔ケアされた後に職員がチェックし磨き残しがないようにしている。又、定期的に歯科衛生士による口腔チェックを行い、必要時は歯科治療につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	高齢により、生理的に失敗される方が多い為、尿取りパットを活用しつつ、定期的に声かけしてトイレに誘導している。「お互いに安心できる」という信頼関係を大切にしながら支援している。	排泄チェックシートを参考に日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間もパットの容量を考慮しながら職員によるパット交換を行っている。夜間、センサーを利用することでポータブルトイレを使用する方の安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に確認して、便秘予防になるように水分補給や運動を実施している。薬の副作用や慢性的な便秘の方には、苦痛や不安を引き起こさないよう為に、医療と連携し緩下剤を使用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様の体調や希望に合わせて援助が出来ている。拒否されたときは、時間をおいたり、日を変えたりしており、安心して入浴でき、気持ち良かったと思って頂けるようコミュニケーションをとりながら支援している。	週2回の入浴を基本とし利用者の体調に合わせて入浴を支援している。入浴が楽しみとなるよう入浴剤を使用したり冬至にゆず湯を提供している。入浴後は個別に処方された保湿剤を塗布したり、水分補給にも努めて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠できるように介護機器等を利用しながら、排泄の支援方法(時間、回数等)を利用者様毎に変更したりしている。また、必要に応じて午睡を取って頂いている。(希望する方も)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用については、処方時に必ず確認しており、変化が見られた際には、速やかに主治医に報告し、対応できるようにしている。誤薬や飲み忘れがないようにダブルチェックや声出し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人が生きがいを持って過ごせるようにそれぞれの得意な事や、昔やっていた事などを把握し、日々取り組んでいけるように支援している。又、季節毎の作品を作ったり散歩などで季節を感じてもらえるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出自粛していたので、遠くへの外出は出来なかったが、天気の良い日は敷地内の散歩に行ったりしていた。今後は必要に応じて家族の協力を得ながら本人の希望通りの外出ができるように支援していく。	コロナ禍の為、外出や面会制限が継続中であるが、外出については法人敷地内での桜の花見やウッドデッキでのお茶飲みなど日光浴を行ったり、家族との面会や外出についても徐々に緩和していく方向で対応している。自由に外出できない代わりに夏祭りや運動会等の活動に工夫を凝らすことで気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、事前に本人・家族と話し合っていて決めている。又、必要なものを購入する際は家族に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望がある場合は、自由に使い話をしてもらっている。暑中見舞いや年賀状など家族に出している。家族からも手紙を頂いたときなど電話をかけて会話を楽しんでもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節折々の花を飾ったり、利用者様が制作した各月毎の作品を飾るなどしている。又、温度・湿度等は利用者様に確認しながら調整し、換気も含め、居心地よく過ごせるようにしている。	玄関アプローチは緩やかなスロープとなっているため車椅子の方でも移動がしやすく、両側の手すりも歩行者にとって大変有用である。フロアの採光は十分にあり、レースのカーテンで室内を涼しく保つと共に、こまめな換気や冷暖房の調整により快適な室温としている。フロアのテレビは後ろの方も見えるよう少し高い位置に設置するなど配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではソファに座って外を眺めたり、テレビ観たりされている。また自席で本や新聞を読んだり、他の利用者様と話をしたりとおもいおもいの場所で過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人なじみの家具や生活用品などの持ち込みをお願いしている。居室内には家族の写真や送られてきたカード、ご自分で作られた作品などを飾っている。	エアコン、電動ベッド、押し入れが備えつけられ、自宅から持ち込まれたテレビやタンス、藤の椅子や遺影等を自由に配置することで居心地に配慮している。居室の清掃は職員が毎日丁寧に行い衛生に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入口のスロープや施設内の手すり、室内から段差なくでられるウッドデッキなどを設置し、身体機能が低下された方も快適に過ごせるよう工夫している。又、トイレや浴室など分かりやすいように掲示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない